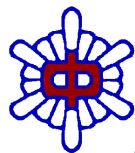


松溪中の正門の桜



令和7年度
杉並区立松溪中学校



4月号

松溪だより

<http://www.suginami-school.ed.jp/shoukeichu/>



教育目標

- 自学・自立
- 思いやり・感謝
- 鍛錬

令和7年度のスタート

校長 小松 進一

一乗り合いバスの旅ー

4月は学校や会社にとってお正月のようなもので、ここから新しい1年が始まります。国や地方公共団体の歳入・歳出の区切りとされる期間を会計年度といいますが、日本では、4月1日から翌年3月31日までとすると決められています。この会計年度が、4月スタートの年度の元になっているそうです。理由はともあれ、日差しが明るく柔らかくなり、花のつぼみがほころぶこの時期に、学校や会社の1年のはじめをもってきたのは、すてきなことだな、と感じます。

そんな春の日に松溪中生の2、3年生の皆さん、進級おめでとうございます。そして、104名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

同じ学校の生徒になることは、実はたくさんの偶然が重なった結果です。公立学校の場合、子どもたちが学齢期になると、住んでいる地域の学校への入学のお知らせが保護者の方に届き、入学式を迎えます。生まれた年、その時住んでいる地域が違えば、この学校で一緒になることはなかったかもしれません。新しくクラスメートになったとか、出席番号の前後とか、席が隣とか、どれも些細な偶然ですけれども、後になって考えると不思議なめぐり合わせ、縁を感じことがあります。

そもそも、学校のように、同じ年齢の人が集まって集団となり、同じことを学び生活するというの、長い人生の中でかなり珍しいことで

す。同じ年齢の人だけでつくられている集団は、学校以外にはほぼありません。社員が全員30歳の会社とか、40歳の人だけが住んでいるマンションとか、55歳の人だけが住んでいる町なんか現実的ではありません。

同じ服装をして同じ教室で勉強をし、同じ給食を食べて…と、同年齢と一緒に暮らしていると、自分以外の人も自分と同じような感じ方、考え方をしているのかな、と思いがちですが、実際は全然違います。学校生活の中では、それそれが色々、みんな違うということを実感してください。異なる感性や価値観、考え方の人から学び合ってください。

学校というのは、それぞれがたまたま一緒のバスに乗り合わせた乗客のようなものです。それぞれ進みたいゴールがいつか見つかるでしょう。それに向けて旅をする。決してバスに乗り続けることが目的ではありません。たまたま同じバスに乗り合わせた乗客同士、お互いの自由を侵害しないよう配慮しながら、気持ちよく旅を続けたらいいと思います。傍若無人(ぼうじょくぶじん)なるまいに人に嫌な思いをさせたりしない、困ったときにはさりげなく助け合いながら、楽しい会話を交わし、バスに揺られる旅をすればいいと思うのです。無理に一体感とか団結とかを強いることなく、穏やかで、だけれども充実したバス旅を、4月から一緒に始めましょう。

